

1 水稻「あさひの夢」の特性

1 背景・ねらい

「日本晴」は、倒伏に強く、多収であることから、昭和 38 年本県で奨励品種にされた。しかし、縞葉枯病に罹病性であるため、本病が多発する本県平坦地では薬剤防除なしでは生産が困難となっている。

このことは本県が掲げている、低コスト生産及び減農薬による「ぎふクリーン農業」推進の支障となる。そこで「日本晴」に代わる良質、多収で縞葉枯病抵抗性を有する品種を奨励品種決定調査において評価した結果、新品種「あさひの夢」を選定した。

本報告では今後の新品種「あさひの夢」の生産に向けてその特性について述べる。

2 試験の方法

(1)試験区： 早植(5 月上旬)・普通期植(6 月上旬)、

標準区(窒素施用量 基肥 6+穂肥 4kg/10a)・減肥区(4+4kg/10a)

(但し、年次により未調査区がある)

(2)調査：奨励品種決定調査の調査項目について実施。玄米タンパク含量はサタケ社製食味計またはニレコ社製食味計を用いた。

3 成果の内容・特徴

「あさひの夢」は ハツシモの血を引く「あいちのかおり」を母に縞葉枯病抵抗性を有する(愛知 5 6 号 / 愛知 6 5 号)の交雑系統を父とした交配により平成 4 年に愛知県農業総合試験場において育成された。奨励品種決定調査で見られた特性は以下の通りである。

(1) 出穂・成熟期は、早植、普通期植ともに「日本晴」と同じ中生である。

(2) 稈長は「日本晴」より 2 ~ 1 0 c m 程度短く、穂数は「日本晴」よりも多い。

(3) 縞葉枯病抵抗性を有する。

(4) 玄米千粒重は「日本晴」よりもやや小さい中粒で、等級は「日本晴」より良好である。

(5) 玄米収量は、縞葉枯病発生による減収がなく、防除管理された「日本晴」と同等以上である。また収量の変動は比較的小さいと考えられる。

4 主要成果の具体的数値

表1 生育・収量

(標肥：平成6年～11年、減肥：平成9～10年の平均値)

栽培 区分	肥料 水準	品種名	出穂期 月 日	成熟期 月 日	稈長 c m	穂長 c m	穂数 /m ²	収量 kg/10a	千粒重 g	等級	倒伏	縞葉枯
早植	標肥	あさひの夢	8.10	9.15	72	21.4	323	580	22.4	1.3	0	0
		日本晴	8.10	9.15	73	21.2	231	316	23.4	1.8	0.1	3.2
	減肥	あさひの夢	8.11	9.17	73	20.6	284	572	22.6	1.5	0	0
		日本晴	8.10	9.11	75	21.3	223	350	23.5	2	0	3
普通期	標肥	あさひの夢	8.23	10.01	71	22.0	329	532	22.7	1	0	0
		日本晴	8.21	9.29	76	21.0	263	372	23.6	1.5	0.8	2.3
	減肥	あさひの夢	8.22	9.26	69	20.5	288	483	23.0	1	0	0
		日本晴	8.24	9.26	75	19.5	288	467	23.6	1	0	1

倒伏、縞葉枯病発生程度 0 → 5 = 無 → 甚

表2 現地試験における生育・収量

(平成8年～平成10年の平均値)

試験場所	品種名	出穂期 月 日	成熟期 月 日	稈長 c m	穂長 c m	穂数 /m ²	収量 kg/10a	千粒重 g	等級	倒伏	縞葉枯
平田町	あさひの夢	8.18	9.13	78	20.1	388	648	23.3	1	0	0
	日本晴	8.15	9.29	81	19.7	438	613	23.4	1	0	0
揖斐川町	あさひの夢	8.16	9.21	74	20.5	321	498	23.4	1.5	0	0
	日本晴	8.15	9.21	77	20.1	308	505	23.3	2	0	0
垂井町	あさひの夢	8.17	9.29	78	19.8	344	588	23.4	1	0	0
	日本晴	8.16	9.29	85	19.5	384	589	22.7	-	2	0
美濃市	あさひの夢	8.24	10.07	66	19.8	318	504	22.0	-	1	0
	日本晴	8.22	10.06	76	17.8	348	529	23.3	2	1	0
美濃加茂市	あさひの夢	8.23	10.05	74	20.6	293	586	22.4	2	0	0
	日本晴	8.23	10.06	76	20.7	391	543	21.9	2	0	0

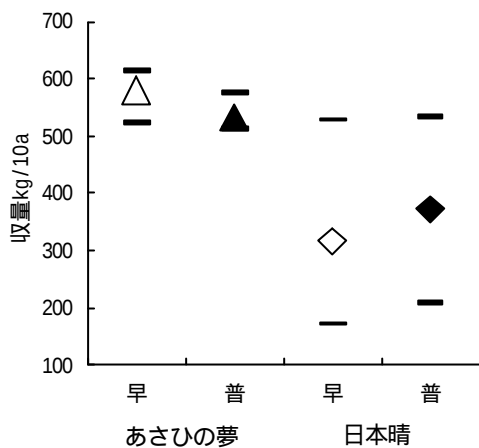


図1 作期の違いによる収量の変動
(標肥区)

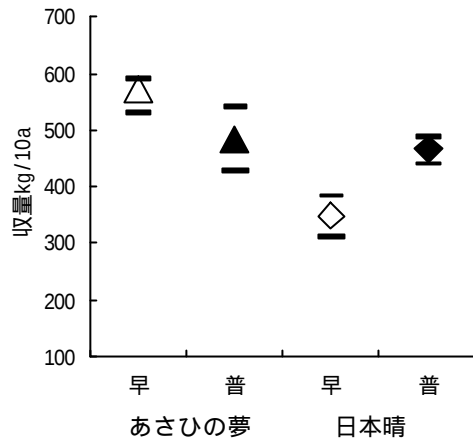


図2 作期の違いによる収量の変動(減肥区)

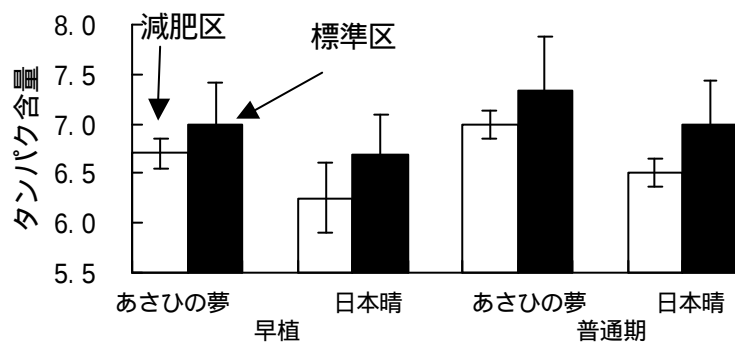


図3 肥料水準の違いによる玄米タンパク含量の変化
(H10-11平均)

5 期待される効果

縞葉枯病抵抗性を有するため、減農薬栽培が可能である。従って、栽培の低コスト化及び農薬を使用して栽培した他品種との差別化ができる。

6 成果の活用面・留意点

- (1) 縞葉枯病が発生する平坦地の「日本晴」栽培地帯を中心に普及させる。
- (2) 多肥栽培でも倒伏が無く収量も上がるが、玄米タンパク含量が高くなるために食味低下が懸念されるので、肥料は窒素成分で10aあたり8kg(総量)程度にとどめる。